

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100209		
法人名	株式会社やつかの郷		
事業所名	グループホームやつかの郷新館 西ユニット		
所在地	島根県松江市八束町二子1025番地9		
自己評価作成日	令和3年3月12日	評価結果市町村受理日	令和3年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社ケーエヌシー
所在地	松江市黒田町40番地8
訪問調査日	令和3年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた静かな環境で、建物周辺には牡丹や梅、河津桜などが植えられており、散歩をしながらお花見や花摘みができます。利用者同士で馴染みの関係が作られ、一緒になってお手伝いをされたり、歌が好きなご利用者はカラオケを楽しんだり、ご自分の居場所ができるよう支援しています。できる限り自立した生活が維持できるよう、自立支援を目指しています。感染症対策として、毎日の換気、消毒を徹底し、オゾン発生器や、除菌・空気清浄器を設置しています。災害時や行方不明者などにも対応できるよう、周辺施設等と、連携体制をとっています。

中海と島根半島が四季を彩り、周辺の梅や桜、牡丹が和ませてくれる自然環境のなかで、これまでの暮らしや馴染みの関係を継続する延長線上に立地する当ホームで暮らす利用者は、抑制されない散歩をしながら憩う外出を行い、本人本位に趣味を活かし又、互いに馴染みの関係を築き協働し、居心地よい居場所が支援されている。コロナ禍で感染症対策は徹底されて、安心安全なケアも実践されている。当ホームは後発事業所であり、同敷地に隣接する先発のグループホームとは防災対応や利用者搜索に連携しながら支援に努めている。理念は、高齢者介護のキーワード「尊厳」をアピールして玄関に掲示し、職員の資質向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関に掲示し常に目に留まるようにしている。職員全体で共有し、実践につなげている。	「おだやかで楽しい、尊厳ある生活を保障します」「人の絆で、しあわせな安心できる生活を保障します」の理念は玄関等に掲示し、支援は「尊厳」を明記して、職員会議等で尊厳ある具体的なケアの意見統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、外部との交流を行っていない。地域の方とは、野菜作りなどをしていただいたり採れた野菜等を持って来ていただいたりしている。	コロナ禍で、今年は自治会、保育園児、老人会等とのつきあいは中止しているが、野菜づくりに訪ねて来たり又、野菜を差入れてくれたりする地域の人との繋がりがあがる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所の問い合わせ等、ご家族から認知症の方への支援の仕方について聞かれることもある。悩みなどを傾聴し、精神的ケアにも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で、外部の方を招いての運営推進会議は行っていない。利用者情報や施設内での行事など、文書で発信した。	コロナ禍で、運営推進会議開催はできないため、施設の行事等やホームの利用者の様子等の報告連絡を今年は4回程度書面にして行い、情報の共有に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	家族からの要望で、生活保護申請を検討しておられる方の手続きについて、同行し一緒に話を聞き相談にも対応している。	認定更新や届出等の機会等に市担当者へ、利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に虐待防止委員会を開催し、身体拘束廃止に向けて話し合っている。具体的な場面で身体拘束に当たる事項はないかなど、申し送り等でも意見を出し合い共有している。	虐待防止委員会を兼ねた身体拘束廃止検討委員会は3ヶ月に1回開催し、身体拘束駄目の意識付けを行い、申し送りの中でも注意しあい、言葉の拘束も同様に行い、外出願望の利用者には抑圧感を招かない言葉と一緒に散歩をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修でも取り上げ、全職員と認識を共有するよう努めている。不適切なケアに対して、施設長、管理者に報告し、また職員間で指摘し合うよう、職員会議で全職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	やつかの郷本館では、ご家族が成年後見制度を利用開始され、利用料の支払い等成年後見人とやり取りする機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問や、電話連絡等でも説明をしている。契約時、解約時にも説明させていただき、理解し納得をされてから、手続きを進めるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。来所時や電話等でご意見を頂くこともある。苦情窓口を設置しており、外部の申し立て機関も重要事項説明書に連絡先を記載しており、口頭でも説明している。	玄関に意見箱を設置し、意見、要望を聞く機会を設けている。意見は電話で聞く事が多く、面接時は外泊希望等の相談に対応している。苦情窓口等は、重要事項説明書に明示し、口頭でも意見を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全職員対象に職員会議を行い、意見を聞くようにしている。また施設長・管理者は、適宜、個別面談等で、意見や提案を聞いている。	毎月全職員対象の職員会議は、人員や配置の相談、業務のやりくり、介護に使用する道具の購入及びレクリエーションの提案等の職員の意見は運営に反映され、適宜の個別相談はコロナ禍の意見も聞き話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時、翌月の希望休を聞いている。また個人の働きやすい条件等を聞き、夜勤の回数や日勤・遅番帯も考慮している。処遇改善加算で資格手当の拡充や、新規に特定処遇改善加算を算定した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では年間計画を立て、毎月色々なテーマで研修を実施している。また、資格取得のための研修参加を希望する職員には、勤務調整を行い、勤務内で研修を受けられるよう、積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの為、グループホーム部会の参加はなかった。隣接の居宅介護支援事業所や介護事業所職員と情報交換等の交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始までに面接を行い、利用者様が困っていることや不安なことを聞き取り、安心して入居されるよう努めている。入居間もない方には、不安が解消されるよう特に声掛けを多く持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用開始までに面接を行い、ご家族様が困っていることや不安なことを聞き取り、安心していただけるよう努めている。入居後のご様子や状態報告を行なうなど連絡を取り合い、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者様、ご家族様の意見・意向を聞き、当事業所で支援できるか検討している。また、要介護度に応じた、他のサービスがあることも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員は、一つの大きな家族として生活できる環境作りに努め、共に時間を共有できるよう努めている。お手伝いの出来る方には、積極的にしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力医以外の受診を希望される場合には、付き添いをご家族にお願いしており、協力が得られている。窓越しでの面会や、電話を取り次ぎ、直接本人様と話をしてもらうこともある。お便りや新聞等で行事の写真を載せお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの為、今年度は外部との交流は実施できていない。地元の写真や家族の写真を見ながら、話をするようにしていた。	近くの美容院来訪等の外部との交流は、コロナ禍で今年度は実施していない。地元の写真や、家族の写真をみながら利用者と話をする等行い、これまでの馴染みの関係等を振り返って、途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつ以外の時間も、ホールで過ごされる方がおられ、お手伝いも一緒に協力して行うなど、利用者同士での馴染みの関係ができている。居室へ行って、お話をされたり、お互いに食事の声掛けをされたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、サービス事業所と連携をとり、情報提供したり、必要に応じてご家族様の相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の意向を聞き、日頃の生活の中での変化や表情など、職員が感じたことや気づいたことを担当者会議等で話し合い、計画に反映できるようにしている。	利用者の思いと意向の把握は、いつもと違う様子の変化や表情から職員が気づき感じた時は、特に注意して声掛けし、意向や思いを汲み取る努力を会議等で話し合いケアプラン反映に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時に、ご本人、ご家族、担当ケアマネージャーから情報を収集している。入所後も、話をする中で生活歴などを聞き、職員間で情報共有し把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人生活記録に記入し、特に重要なことは業務日誌にも記載し、申し送り時に報告している。ノートや、週間の業務分担表に記載したり、当日ホワイトボードに書き込むなど、全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、ユニットリーダーを中心に話し合いの機会を持ち、意見を出してもらっている。定期的にモニタリングを行い、ご家族からは電話等で意見をもらい、介護計画に反映している。	ケアプラン担当者やユニットリーダーが主体の話合は、睡眠やマットセンサーの意見が出され、家族は電話で意見を述べ、新規利用者のニーズの意見は他の職員の話聞きカンファレンスし、定期的にモニタリングを行い、意見はケアプランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に、実施したことやご本人の発言されたことを記入し、日々の変化などについて、気づいたことは申し送り等で伝え、情報共有している。それをもとにモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いや考えに寄り添い、意向に沿うように心がけている。身体状態や精神状態の変化などに気を配り、多職種で連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの為、地域の方との交流は行っていないが、事業所内で季節ごとの行事などを行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続受診も可能で、ご家族に受診協力をしていただいている。協力医への定期受診は職員が付き添い行き、緊急時等には往診を依頼している。居宅療養管理指導契約し、薬局薬剤師とも連携をとっている。	家族同行の合意により入居前のかかりつけ医の受診継続は大切にされている。大多数の利用者は職員が付添う協力医の受診を定期に行い、緊急時等は往診を協力医に依頼し、薬局薬剤師とは薬の相談を行なう等の適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師と常に連絡がとれる体制をとっている。隣接の他事業所の看護師にも協力を依頼できる体制があり、急変時等に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供を行い、病院からの問い合わせにも対応している。相談員等と随時連絡を取り合い、退院前にはカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、終末期のあり方について、ご家族の意向を確認している。看取りを望まれる場合には、主治医と直接面談していただき、再度意向の確認を行い、事業所でできることを説明し納得された上で、看取り契約をしていただいている。事業所内でマニュアルを作成し情報共有している。	入居時は看取りを家族に確認し、看取り希望は、主治医との面談で再確認をし、看取り指針を説明し、看取り契約を結んでいる。以前に看取りの経験があり、看取りは、研修会で勉強をし、スタッフやドクターの研修も受け、全職員協力して安心できる看取り体制をチームで支援する取り組みに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本館内にAEDを設置しており、定期的に心肺蘇生法の研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に、災害時に備え避難訓練や設備の整備、備蓄などを行っている。近隣事業所とも連携するよう、緊急連絡網を作成している。	年2回の避難訓練は、避難誘導や避難経路を確認し消火器使用も研修している。雪害時の食料等の備蓄や点検を行い、通報訓練は毎年消防署と連携して行い、緊急連絡網は隣のホームと一体と成り作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	少人数で接遇研修を行い、自己評価をしてもらい、研修担当者や管理者が他者評価をしている。目上の方という意識を持ち、言葉使いに気をつけるよう職員同士で声を掛け合うようにしている。	3人位で行う少人数の接遇研修は、自己評価と管理者等の評価により、言葉遣いは職員間で注意しあい意識づけ、利用者の思いに寄り添い納得するまで根気よく話し、人格やプライバシー等の尊重の対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時など個別で対応するときなどに、ゆっくりとご本人の意向や思いを聞くようにしている。しっかり声掛けを行い、表情や仕草などから思いを引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さんと一緒に歌や体操などもあるが、個別での作業など、ご本人のやりたいことに合わせて支援している。午睡されない方や就寝時間の遅い方など、ホール等で過ごしていただいている。他ユニットのホールに自由に行き来され、レクに参加される方もおられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容室から来所していただき、カットや髭剃りを楽しみにしておられる。ご家族から送られてきた服に着替えられ、おしゃれを楽しんでおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採れた野菜を使い、調理担当職員が食事を作っている。温めや盛り付けはユニット内で行っている。行事の際などは献立を工夫し、季節感を味わっていただいている。下膳やお膳拭きなど、できる方に役割としてお願いしている。	調理担当職員は地元産の野菜を用いて利用者に喜びや楽しみをもたらす食事を作っている。利用者は役割を発揮して片付け等は職員と一緒にしている。行事の時は、外注食、特別メニューのちらし寿司等、年末の蕎麦等で行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作り、量やバランスを考えながら提供している。食事、水分量を毎食時チェック表に記入しており、体重や採血結果によっては看護師や主治医と連携をとり、嗜好品を提供したりトロミを使用するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きを行うよう声掛けをしたり、出来ない部分の支援を行っている。夜間は入れ歯洗浄剤を使用している方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するように努め、排泄チェック表を確認し、適時声掛けや誘導を行っている。パッドの当て方に気を付けたり、使用するオムツ等の種類を検討している。	排泄チェック表によりトイレパターンを把握し、時間、食後、昼寝の後を見計らってタイミングよくそれとなく声を掛けて歩行介助してトイレ誘導を行ない、トイレでの排泄を大切に、利用者に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入し、便秘の方へは水分強化し、ゆっくりトイレに座っていただくようにしている。トイレが自立の方へも、声掛けを行い、便秘になっておられないか把握するように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴していただいている。タイミングが合わない場合は他ユニットで入浴していただいたり、体調不良時は日時を変更している。間隔が開く場合には、清拭や足浴、更衣をしていただくようにしている。	週2回の入浴は生活習慣のタイミングに合わせて支援し、入浴日変更は体調不良時に行っているが、入浴拒否者は時間や日にちをずらしたり、清拭、足浴、更衣等の対応により個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、寝付けない方にはホールでお茶を飲んでいただき、テレビを観ていただいたり、お話をしたりして、眠くなるまで一緒に過ごしている。日中活動をしていただいたり、午睡時間が長くなりすぎないように、適時声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導で薬剤師が定期的に訪問しており、主治医、看護師と常に連携し情報交換している。全職員に周知するよう、情報提供書や服薬情報のファイルは常に確認できる場所に置いてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のやりたいことや役割を見つけられるよう支援している。利用者同士で声を掛け合いながら、一緒に作業をされたり、お部屋に訪問し交流しておられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの為、外出の機会が少ないが、施設敷地内へ出かけ花を見たり摘んだりして帰られる。ホールに花を飾り、季節を感じていただいている。	外出支援は、コロナ禍で積極的に行われることはなく、利用者はホームの敷地で花を見ながら散歩をしたり又、花を摘み取ってホールに飾ったりする等して季節を感じる生活を送っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等でお金を使われる機会はないが、食事代や宿泊代の支払いを気にされる方もおられ、ご家族や事務所で管理されている旨を、都度説明し納得されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどを、ご本人に書いていただき、ご家族から返事をいただくこともある。こちらから電話をかけたり、ご家族からの電話を取り次ぎ、直接ご本人と話をされる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随時、玄関や廊下の掲示物を張り替えたり、行事に合わせてご利用者と一緒に作成した物を飾り付けている。室温や日当たりなどに気を遣い、ゆったりと過ごしていただける環境作りに取り組んでいる。	利用者と職員が一緒に考えた作品を玄関や廊下に飾り、自分が住んでいる家という意識を高め、玄関のクリスマス飾りや折り紙作品お雛様飾りは行事のたびに入れ替えて又、共用空間は適温管理が行われ、居心地よくゆったりと過ごせる工夫に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で食事やおやつの時間を過ごせるよう配置を考えているが、場合によって、独りのテーブルにしたり、いつもと違う方と並べられたりと、ご利用者の思いに沿って対応している。		
54	(20)	テレビ 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅からテレビやラジオ、ラジカセなどを持って来られ、自由に居心地よく過ごせる空間がある。ご自宅から見える風景写真や、ご家族の写真を飾っておられる方もある。	居室には利用者の住み慣れた自宅周辺の風景写真や家族の写真が飾られて、使い慣れた好みのものや家具が持ち込まれ、居心地の良さが配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路の動線には物を置かないようにし、安全に歩行できるよう気を付けている。居室やトイレなどわかりやすいように、目印をつけたり張り紙をしている。		